

各 位

上場会社名 東北特殊鋼株式会社
 代表者 代表取締役社長 山口 桂一郎
 (コード番号 5484)
 問合せ先責任者 取締役 吉田 宏
 (TEL 0224-82-1010)

連結業績予想の修正ならびに個別業績見込み および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年10月28日に公表いたしました平成28年3月期通期の連結業績予想を修正いたしましたのでお知らせするとともに、個別業績におきましては開示しておりませんでした。前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、お知らせいたします。また、平成28年3月期決算にて特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正、個別業績見込みについて

●連結業績予想の修正について

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 17,900	百万円 1,450	百万円 1,300	百万円 800	円 銭 106.25
今回修正予想(B)	17,700	1,490	1,430	320	42.50
増減額(B-A)	△200	40	130	△480	
増減率(%)	△1.1	2.8	10.0	△60.0	
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	18,566	1,867	2,129	1,080	143.53

●個別業績見込みについて

平成28年3月期通期個別業績見込み（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 15,849	百万円 1,178	百万円 1,415	百万円 247	円 銭 32.83
当期実績見込み(B)	14,800	800	860	△290	△38.52
増減額(B-A)	△1,049	△378	△555	△537	
増減率(%)	△6.6	△32.1	△39.2	—	

通期連結業績予想修正の理由

(通期連結業績)

売上高につきましては、主要取引先である自動車産業からの受注が、中国や新興国経済の減速等を背景とした在庫調整の長期化等により減少しており、前回公表した予想値を下回る見通しであります。

営業利益につきましては、受注の減少を補うべく、生産性の向上や原価低減活動の推進効果などにより、前回公表した予想値を上回る見通しであります。

経常利益につきましては、直近の為替相場が円安・タイパーツ高に推移したことにより、為替差損が想定よりも減少することなどにより、前回公表した予想値を上回る見通しであります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、厳しい受注環境が続いていることを背景とした「2. 特別損失の計上について」に記載の特別損失の計上などにより、前回公表した予想値を下回る見通しであります。

通期個別業績見込みの前期実績との差異理由

上記の通期連結業績に記載のとおり、厳しい受注環境の中、生産性の向上や原価低減に努めてまいりましたが、売上高、営業利益は前期実績を下回る見通しであります。

経常利益につきましては、営業利益の減少、為替差損の発生などにより、前期実績を下回る見通しであります。

当期純利益につきましては、厳しい受注環境が続いていることを背景とした「2. 特別損失の計上について」に記載の特別損失の計上などにより、当期純損失となる見通しであります。

以上のことから、平成28年3月期(通期)の連結業績予想の修正ならびに個別業績見込みをお知らせいたします。

2. 特別損失の計上について

(1) 固定資産の減損(連結)

タイにおける当社の連結子会社であるTOHOKU Manufacturing(Thailand)Co.,Ltd.に対する投資効果が計画通り得られず、将来の回収可能性を検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失490百万円を特別損失として計上する見込みであります。

(2) 固定資産の減損(連結・個別)

特殊鋼事業のうち当社の精密加工部門における当期取得の固定資産について、業績が未だ改善しないことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失103百万円を前期に引き続き特別損失として計上する見込みであります。

(3) 関係会社株式の評価損(個別)

上記(1)の固定資産の減損損失計上などに伴い、当社の連結子会社であるTOHOKU Manufacturing(Thailand)Co.,Ltd.が債務超過となる見込みであることから、「金融商品に関する会計基準」に基づき、当社の保有する同社株式について関係会社株式評価損382百万円を前期に引き続き特別損失として計上する見込みであります。

なお、関係会社株式評価損は、個別財務諸表のみで計上されるものであり、連結決算では消去されるため、連結損益への影響はありません。

(4) 関係会社貸倒引当金繰入額の計上(個別)

上記(1)の固定資産の減損損失計上などに伴い、当社の連結子会社であるTOHOKU Manufacturing(Thailand)Co.,Ltd.が債務超過となる見込みであり、同社への貸付金の回収可能性を勘案した結果、関係会社貸倒引当金繰入額464百万円を特別損失として計上する見込みであります。

なお、関係会社貸倒引当金は、個別財務諸表のみで計上されるものであり、連結決算では消去されるため、連結損益への影響はありません。